

第2次安平町総合計画に向けたワークショップ「町民まちづくり会議」
～みんなで考える安平町の将来像～

第2回目テーマ	「目指すべきまちの姿」の実現に向けた安平町の「強み」を考えましょう
---------	-----------------------------------

平成28年6月28日（火）18:30～20:30
安平町 町民センター2階 中集会室

第2回目のワークショップのねらい

- 「目指すべきまちの姿」を実現するために重要となる「安平町の強み」を考えます。
- 更に、特に重視するもの・伸ばすべき「強み」を掘下げていきます。

第2回目のワークショップのプログラム

開会 (15分程度)	◇第2回目の主旨説明 ◇前回おさらい（まとめ結果は事前配布）
ワークショップ (85分程度)	①安平町の「強み」とはどのようなところ？ ②お互いの話を聞いて新たに気づいた「強み」はありませんか？ ③目指すまちの姿を実現に向けて、特に重視するもの・伸ばすべき「強み」は何ですか？
まとめ (20分程度)	◇ワークショップ内容のグループごと発表 ◇次回ワークショップ検討内容

ワークショップのルール

1. 他の方の意見を尊重する（意見を否定しない）

- ・本日の話し合いに正解はありません。多様な意見に耳を傾けましょう。
- ・考えの方向性が違うときは、対案を示しましょう。
- ・様々な年齢・立場の方が参加していますが、皆さん町民として対等な参加者です。

2. 他の方の意見への「相乗り歓迎」です

- ・意見に賛同するときは、「私もそう思う」と意思表示をしましょう。
- ・ある意見に「こうするともっと良いと思う」と意見を追加することも構いません。

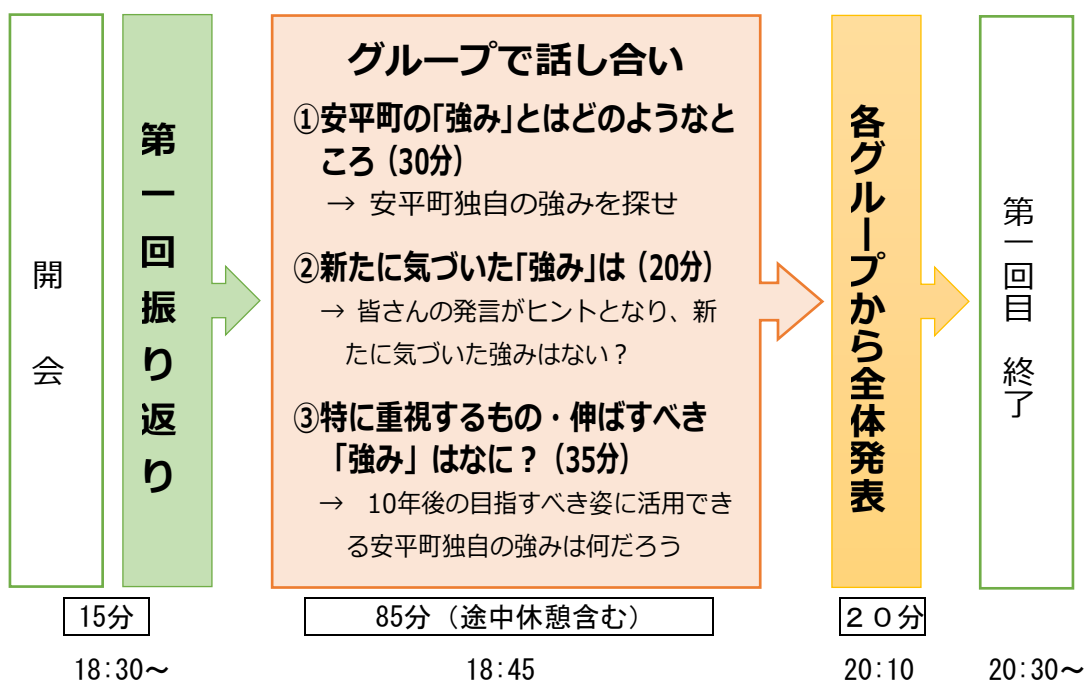
3. 発言は1回 30秒以内で

- ・できるだけたくさんの方に発言する機会を設けたいので、発言は長くなり過ぎないようにご協力ください。話の輪を回していきましょう。

4. 意見は文字として残しましょう

- ・本日出された意見は、次回までにまとめていきます。文字として残っていないと引き継がれませんので、意見はふせんに書き留めましょう。
- ・町職員が皆さんのスピードについていけず、発言を書き留められないときは、参加者の皆さんも書きとめる作業を手伝ってください。

【グループワークタイムスケジュール】



【メモ】

それぞれが発言された内容をメモして帰りましょう。

第2回町民まちづくり会議に入る前に、第1回目を振り返りましょう

- 自己紹介を兼ねて、安平町に住んでみて（活動してみても）の感想をそれぞれメンバーが発言
- 10年後の安平町の目指すべきまちの姿をメンバーで検討



ご意見で出された「目指すべきまちの姿」を分析すると3つに分類できます

①究極の目標(主なもの)

- ◇安全安心なまち ◇生活しやすいまち ◇たのしいまち ◇活気のあるまち ◇ここによかったと思えるまち
- ◇生きることを楽しめるまち ◇(安)心が(平)穏やかになるまち ◇経済的に豊かでゆとりを持って暮らせるまち

②より具体的な目標(主なもの)

[若者・子育て・教育]

- ◇若い家族・世帯がたくさんいるまち ◇若者が住みやすいまち ◇若者が賑わう・活躍するまち
- ◇子ども・若者の多いまち ◇安平町に子どもたちが住み続けられるまち ◇しっかりとした人間力の育つまち
- ◇子どもたちが夢を持てるまち ◇子どもたちの長所が伸ばせるまち ◇皆で子育てするまち
- ◇安心して仕事と子育てを両立できるまち

[福祉・高齢者]

- ◇じいちゃん・ばあちゃんが元気で働いているまち ◇歳をとってもこのまちで死ねるまち ◇老人に優しいまち
- ◇老人も楽しく生きられるまち(高齢者を活用する) ◇地域に居場所があるまち(高齢になっても社会貢献)
- ◇高齢者と子どもの交流があるまち

[地域コミュニティ]

- ◇暮らす人々が役割(コミュニティから頼られる実感)を感じられるまち
- ◇多くの人を訪れる活気あるまち ◇文化やスポーツでNO.1になれるまち ◇みんな仲良いまち

③目標を達成するための手段に属するもの(主なもの)

[生活一般]

◇通信（ネット環境）に困らないまち ◇買い物に困らないまち ◇公共交通機関の充実したまち ◇高齢者が安心して暮らせる医療・介護の充実したまち ◇多種・多様な働く場のあるまち ◇若い世代が働ける所があるまち

[循環型社会の構築]

◇循環するまち（I礼が、地域通貨、食材） ◇第一次産業の作り手の暮らし方、仕事が見せられるまち

[コミュニティ]

◇挨拶が出来るまち ◇町内イベントが盛り上がるまち ◇町民の手づくりが見えるまち

[観光交流]

◇通過されずに立ち寄られるまち ◇宿泊施設がたくさんあるまち

[子育て・教育]

◇スポーツ施設を活かした子育ての出来るまち ◇保育園から中高が一緒のまち（教育一貫性）



①と②の目的でまとめると

夢と希望を持った子どもたちの笑顔があふれ

元気な高齢者が社会に貢献しながら生きがいを持って生き活きと生活し

町内外の人々の交流によって活気をつくり

暮らす人々が役割を分担しながら、発展していくことによって

生きることを楽しめるまち ここに住んでよかったと思えるまち が実現する

こんな大きなくりのイメージとなります

グループワークに入る前に確認しておきたいこと

これから10年間のまちづくりの方向性 → 起爆スイッチはどこか？

特に高齢者を支えるためには、若い人に住んでもらわなければならない。

「おじいちゃんおばあちゃん」が元気で働き続ける。
ずっと地域と一緒に（若者・子どもと高齢者が）仲良く暮らせることが望ましい。



子ども・若者・生産年齢世代がこの町にすることが前提となり

全ての施策が連動することで



あらゆる世代が望む、究極の目標が達成される

①究極の目標(主なもの)

- ◇安全安心なまち ◇生活しやすいまち ◇たのしいまち ◇活気のあるまち ◇ここによかったと思えるまち
- ◇生きることを楽しめるまち ◇（安）心が（平）穏やかになるまち ◇経済的に豊かでゆとりを持って暮らせるまち

子ども・若者・生産年齢世代を取り込んでいくことが重要

でもこれは…全ての自治体共通の課題

若者の転出抑制はもちろん、都会に住むステータスや利便性を超える魅力で、若者や生産年齢世代が安平町へ呼び込み、子どもの声が町内に響き渡ることで、高齢者も生き生き生活できる安平町を実現したい。何がポイント(スイッチ)となるのだろうか？

雇用・企業誘致分野

→ やっぱり働く場所ないと若い人は来ないよ

住宅政策分野

→ いやいや安価な住む場所を整備しなきゃ

健康福祉医療分野

→ 大きな病院がないと安心できないよ

観光(交流)分野

→ まずは安平町を知ってもらわないと

商工業分野

→ 買い物行く場所なきゃ人は来ないでしょ

子育て・教育分野

→ 子育てや教育が充実してなきゃダメでしょ

**すべて
必要**

でも「選択と集中」の時代

今後10年どのスイッチを最初に押したら全てに連動していくか？

「実現する可能性」は「まちの強み」にかかっている
どのスイッチを最初に押せば、起爆して他の分野に波及するのか
そのスイッチを探し 明確な目標を定める → 将来像

子ども・若者・生産年齢世代が安平町に住むための独自スイッチを探せ！

コトラーの4つの競争地位別戦略

4つの地位	市場での役割・戦略セオリー
リーダー	<ul style="list-style-type: none"> 市場での最大シェア企業 市場全体の拡大と自社シェア拡大
チャレンジャー	<ul style="list-style-type: none"> 市場での2番手、追走企業 戦略目的の明確化(正面・迂回等)
フォロワー	<ul style="list-style-type: none"> リーダーやチャレンジャーの模倣 迅速な製品やサービスの提供
ニッチャー	<ul style="list-style-type: none"> 小規模市場でリーダーになる 特定のセグメント顧客や製品

コトラーのマーケットマネジメント(ピアソン・エデュケーション刊)より加工

経営学で使用される「コトラーの競争地位別戦略」未来戦略を検討するうえで「市場でどのような戦略をとるか」が重要。

競争地位とは、市場における役割や地位に応じた企業分類で4つに分けられる。

市場戦略や商品開発戦略を検討する場合の共通言語

■ 苫小牧市、千歳市の戦略を真似するより、強みを活かした独自の戦略でキラリと光るべき → **これがスイッチ**

リーダー

市場シェアがトップの企業。通常、多くの品揃えをもち、価格・新製品・標準化・プロモーション等で他社をリード。

苫小牧市

チャレンジャー

市場において2番手企業といわれる存在。1社ではなく複数社の場合もある。独自の製品や価格戦略により、リーダー企業に対して積極果敢に挑戦。

千歳市、恵庭市

ニッチャー

大規模市場ではなく小規模市場を選択。小規模市場をターゲットにすることで競争回避。自ら特定市場をつくり、その分野で世界的リーダーになる道を選ぶ企業も存在。

白老町(民族共生)
厚真町(社会増実現)

フォロワー

リーダーやチャレンジャーの模倣戦略をとる企業。製品の改善や独自の工夫、迅速な開発力等によってシェアを狙う。ただし、リーダーやチャレンジャーにはなれない。

安平町、むかわ町



「雇用・企業誘致のまち」は最初のスイッチとなるか？

建設機械大手の「コマツ」は本社を石川県小松市へ移転 → 安平町も実現させよう。

苫小牧、千歳にない「強み」はある？ 実現可能？

[強み要素の例]

- 北町工業団地を安価に分譲中
- 空港・港湾のダブルメリットに至近
- 消費地が近い（札幌・苫小牧）

もし極められるものがあれば・・・

雇用が増えれば若い人がたくさん来る

住宅が増えて子どもも増える

人が増えれば医療機関も充実

購買力があれば商店も活性化

需要が増えれば交通機関も充実

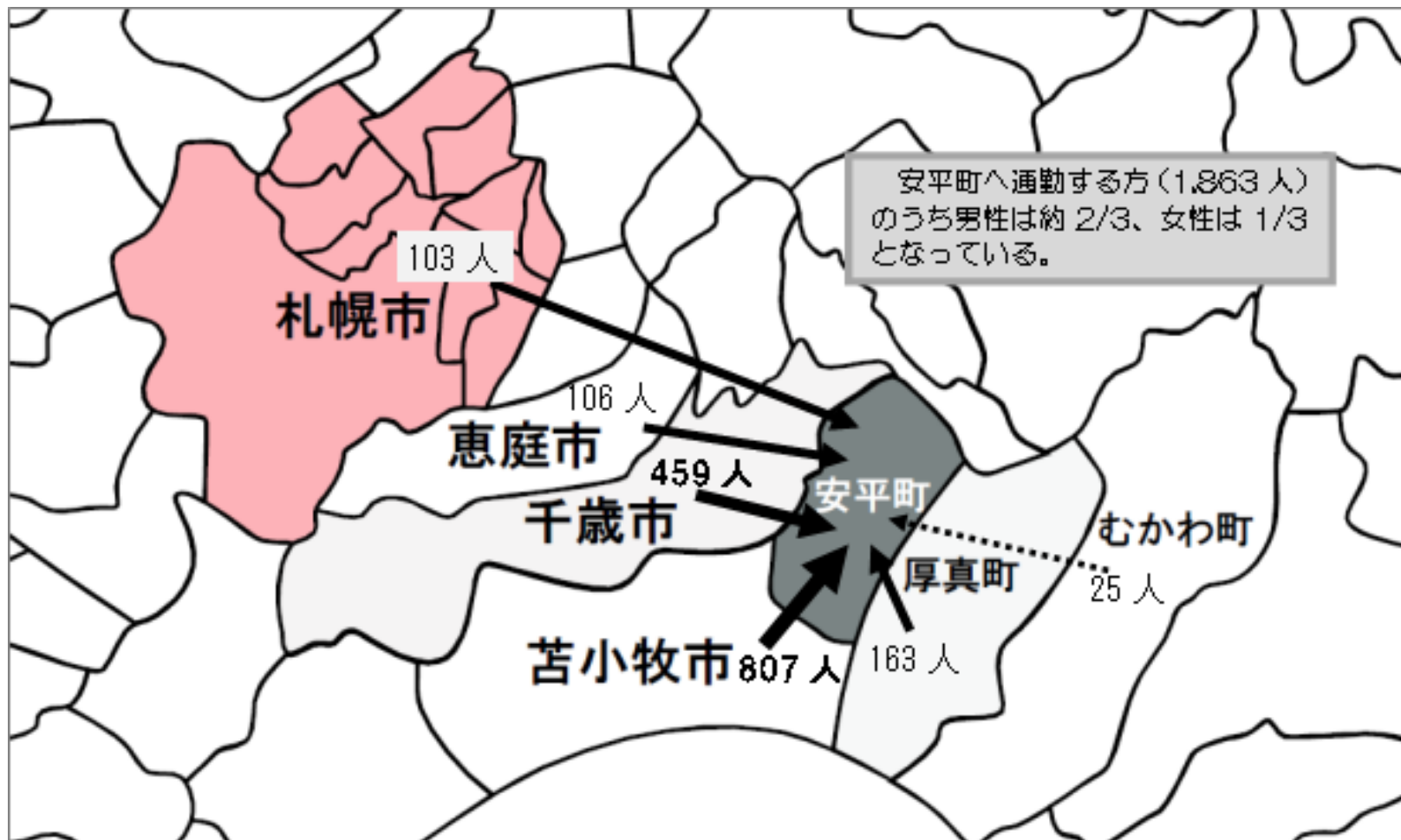
子育て・教育も充実する

あらゆる世代が望む、究極の目標の達成

- ストーリーは完璧。ただ、企業が千歳・苫小牧ではなく安平町を選択する利点と実現可能性は？
- 実は安平町の雇用場所は人口の割りに多い。でも都市からの通勤者が多い。（昼夜間人口比率が高い町）

【参考までに】

H22 国勢調査結果で安平町の昼夜間人口比率は106.7%（全国174位）
近隣市町からの通勤・通学者の数が多い



* 安平町から近隣市町への通勤・通学者数は1,133人（うち通学者228人）

「住宅のまち」は最初のスイッチとなるか？

安価な住宅地を大規模造成し、素敵な市街地を形成しよう

苫小牧、千歳にない「強み」はある？ 実現可能？

[強み要素の例]

- 自然環境の良さ
- 空港・都市に近い
- 札幌・苫小牧・千歳が通勤圏内

もし極められるものがあれば・・・

宅地造成によって若い世代が流入

住宅が増えて子どもも増える

雇用数が確保できれば企業も来る

医療機関ができ商店も活性化

交通機関の充実

ニーズに対応した教育施策

あらゆる世代が望む、究極の目標の達成

- 過去にはこれが功を奏し、千歳・苫小牧が宅地造成着手前、旧追分町では人口増を実現。
- 千歳・苫小牧が郊外に宅地を大規模造成するなか、安平町が同じ施策でその魅力を上回れるか？

「子育て・教育のまち」は最初のスイッチとなるか？

子育て支援・教育を充実させて、子どもの夢を地域が応援するまちづくりをしよう

苦小牧、千歳にない「強み」はある？ 実現可能？

[強み要素の例]

- 地域に認定こども園が2箇所
- 地域教育（ふるさと教育）に実績

もし極められるものがあれば・・・

地域一丸となった子育て・教育

高齢者の社会貢献（子育て応援）

あの町に住むと立派な大人になる

通勤していた方が転入（職住近接実現）

安価な居住地を提供

子ども・若者増加で好循環へ

あらゆる世代が望む、究極の目標の達成

- 子育て支援（給付）を増やす取組みは、全道各地が実施。（それが良いまちづくりか？）
- 給付ではない子育て支援として「教育」へ着目する町は少ない→「ニッチャー」の可能性あり？

市町村名	将来像
歌志内市	いきいきと、みんなで創る心ふれあうまち
新十津川	豊かな自然 あふれる笑顔 みんなで創る いきいき未来
余市町	住み良く安心して暮らせる元気なまち
白老町	みんなの心つながる 笑顔と安心のまち

「究極の目標」を将来像に設定している自治体が非常に多い

(例) ■平成6年6月 (追分町新長期総合計画)

「鉄道文化が生きる出会いと交流・彩り豊かな住宅のまち」

↓
当時の強み

↓
どんなまちにするかという明確な目標

鉄道文化により育まれた出会いと交流の伝統を守りながら、鉄道に頼ってきたまちづくりから、明るく静かな「住宅のまち」に生まれ変わるという意思が将来テーマに込められている。

明確な「彩り豊かな住宅のまち」という目標を実現するための施策が展開された。

- ・住民生活、インフラで何をすれば良いのか？
- ・産業をどうすれば良いのか？
- ・福祉をどうすれば良いのか？
- ・行政運営はどうするべきか？
- ・教育は何が必要か？

何のために（目標）、何をする（施策）という流れが明確である。



3,900人台まで落ち込んだ人口が4,100人台まで回復

極められるまちの強み
明確な目標
がないのなら



究極の目標を将来像

これらが間違っているわけではない。これも正解。

でも具体的な目標の方がみんな納得したまちづくりができる。

負けないまちの強みと
明確な目標で



特色あるまちづくり



究極の目標に近づける

目標以外の施策を止めるわけではない。(アプローチを変える)

本日皆さまからいただく「まちの強み」をお預かりし、

行政を担う役場職員でしっかり内容検討を行い、

次回、7月26日の第3回町民まちづくり会議において

皆さんに納得いただける将来像の方向性(案)を示したい

**そしてこの方向性に基づき各分野で何ができるかを
次回以降のワークショップで検討いただきます**